

シンポジウム

シンポジウム 1 次世代型“包括的緩和医療”に向けて

10月4日(土) 9:20-11:20 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学教室)
鈴木 勉(星薬科大学 薬学部)

- S1-1 転換期を迎える終末期医療:「多死時代」への対応
月山 淑(和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター緩和ケア部門)
- S1-2 オピオイド鎮痛薬の「真実」と期待される次世代型オピオイド鎮痛薬
鈴木 勉(星薬科大学 薬学部)
- S1-3 予後予測が困難な非がんの終末期とこれからの緩和医療
高薄 敏史(獨協医科大学 医学部 麻酔科講座)
- S1-4 脳内快楽ネットワークの活性化による痛みの固定化の“融解”と免疫賦活への足がかり
成田 年(星薬科大学 薬理学教室)

シンポジウム 2 がん・緩和ケア領域における薬薬薬学連携の輪(つながり) - いまとこれから -

10月4日(土) 9:20-11:20 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長: 川添 哲嗣(南国病院)
福岡 竜逸(医療法人 住友別子病院 薬剤部)

- S2-1 地方大学病院における薬薬学連携のつながり
飛鷹 範明(愛媛大学 医学部 附属病院 薬剤部)
- S2-2 当院における薬薬連携の現状と在宅等へ関わり
星加 寿子(医療法人 住友別子病院 薬剤部)
- S2-3 保険薬局薬剤師と病院薬剤師の顔の見える連携緩和医療情報交換会を通じて
松谷 優司(株式会社ホロン すずらん薬局グループ)
- S2-4 長崎での緩和ケア連携 -病院・地域をつないで-
佐田 悦子(アクア薬局本店 管理薬剤師)
- S2-5 患者、地域住民、薬剤師の利益に繋がる薬薬学連携へ -地方大学薬学部の試み-
山口 巧(松山大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター(医療薬学))

シンポジウム 3 MD アンダーソンがんセンターで学んだ チーム医療の展望～自施設のチーム医療は進んだか～

10月4日(土) 9:20-11:20 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 松岡 順治(岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学病院 緩和支援医療科)
河添 仁(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)

S3-1 外来化学療法チームにおける薬剤師の担う役割と展望

河添 仁(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)

S3-2 チーム医療の展開、薬剤師の場合

橋本 浩伸(国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

S3-3 血液腫瘍患者への食事提供制限緩和の取り組み～看護師の役割拡大に焦点を当てて～

千葉 育子(独立行政法人 国立がん研究センター東病院 看護部)

S3-4 大学病院でのチーム医療の実践

大内紗也子(京都大学医学部附属病院 看護部)

S3-5 岡山大学病院におけるチーム医療マインドの醸成と成果

松岡 順治(岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学病院 緩和支援医療科)

シンポジウム 4 どこにいても切れ目のない医療のために、どうつなぎ、どうつなされるか?

10月4日(土) 9:20-11:20 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 門谷 靖裕(湘南鎌倉総合病院 薬剤部)

S4-1 病院⇄在宅医療のシームを考える

日下部明彦(みらい在宅クリニック)

S4-2 その人らしい療養生活を支援する～相談室の役割～

金井 緑(横浜市立みなと赤十字病院 医療連携センター 療養・福祉相談室)

S4-3 どこにいても切れ目のない医療のために～病院薬剤師として出来ること～

宮崎 百合(横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部)

S4-4 保険薬局からの退院時共同指導参加と在宅持続注射への関わり

齊藤 直裕(ゆう薬局、薬剤師)

シンポジウム 5 抗がん剤の副作用対策

10月4日(土) 9:20-11:20 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)

酒井 寛泰(星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門)

S5-1 抗がん剤による末梢神経障害の対策

江頭 伸昭(九州大学病院 薬剤部)

S5-2 抗がん剤による口内炎の症状改善に役立つ漢方薬、半夏瀉心湯

: 基礎および臨床研究の成果をもとに

上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)

S5-3 抗がん剤による消化管障害～5-fluorouracil 投与時の下痢発症における好中球の関与～

酒井 寛泰(星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門)

S5-4 抗がん剤耐性獲得ヒト非小細胞肺癌細胞の形質転換に伴う増悪化機構の解析

葛巻 直子(星薬科大学 薬理学教室)

シンポジウム 6 がん性悪液質の最前線～基礎から臨床をつなぐ～

10月4日(土) 9:20-11:20 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 東口 高志(藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座)
川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

S6-1 がん悪液質発症の分子メカニズムとその治療薬への応用

大澤 匡弘(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 神経薬理学分野)

S6-2 がん悪液質の病態と治療の進歩 - 空腹ホルモングレリンを中心に

乾 明夫(鹿児島大学大学院歯学総合研究科 社会・行動医学講座 心身内科学分野)

S6-3 管理栄養士の視点からみた悪液質の予防及び進展抑制のための栄養管理

利光久美子(愛媛大学医学部附属病院栄養部)

S6-4 がん性悪液質の代謝学的解析と進展抑制への可能性について

二村 昭彦(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム薬剤課)

シンポジウム 7 痛みの発現と増悪化のマルチアングルな捉え方

10月4日(土) 14:40-16:40 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学教室)
中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S7-1 痛みの発現、広がりと同定: 激痛によるマイクロ環境の変容とネットワーク破綻

中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S7-2 痛みの日内リズム: 時間疼痛学の臨床応用

井関 雅子(順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座)

S7-3 痛みの細胞記憶: 積極的な先行除痛の有用性

成田 年(星薬科大学 薬理学教室)

S7-4 痛みに対する脳の応答: 痛みを抵抗する脳

仙波恵美子(大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科)

シンポジウム 8 緩和ケア普及啓発事業イベントのエッセンス 「緩和医療の臨床 Q & A」

10月4日(土) 13:40-15:40 第2会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F サブホール)

座長: 東口 高志(藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座)
川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

S8-1 緩和ケア普及啓発事業 in 東海の概要

塩川 満(総合病院 聖隷浜松病院)

S8-2 オピオイドを初めて処方するときの留意点

下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)

S8-3 アカシジア発現の初期症状(精神科医)

内藤 宏(藤田保健衛生大学 医学部 精神神経科学講座)

S8-4 在宅で苦痛コントロールをするコツ

姜 琪鎬(みどり訪問クリニック)

S8-5 緩和ケア普及啓発の key となる人財の育成

川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)

シンポジウム 9 メサドンの基礎から臨床まで

10月4日(土) 13:40-15:10 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 国分 秀也(北里大学病院 薬剤部)
久原 幸(手稲溪仁会病院がん治療管理センター緩和ケア室)

S9-1 メサドンの薬理学的特徴

大澤 匡弘(名古屋市立大学大学院 薬学研究科 神経薬理学分野)

S9-2 メサドンの薬物動態的特徴

国分 秀也(北里大学病院 薬剤部)

S9-3 メサドンはどう使われているか?

山口 崇(神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター(緩和支援治療科))

S9-4 メサドン使用の実際と展望

瀧川千鶴子(KKR札幌医療センター 緩和ケア科)

シンポジウム 10 入院麻薬自己管理の現状と将来に向けて ～問題点と ROO (rapid onset opioid) の適正使用を考える～

10月4日(土) 13:40-15:10 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 富安 志郎(医療法人光仁会 西田病院)
八本久仁子(独立行政法人国立病院機構 柳井医療センター)

S10-1 入院患者における医療用麻薬自己管理の現状

武智 宣佳(独立行政国立病院機構四国がんセンター 薬剤科)

S10-2 入院患者における医療用麻薬のレスキュー自己管理に向けて ～プロトコルの構築と色々な視点から見えてきた問題点～

形部 文寛(独立行政法人 国立病院機構 東広島医療センター 薬剤科)

S10-3 レスキュー製剤の自己管理に対する現状と課題

高田 慎也(独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター 薬剤科)

S10-4 オピオイドレスキュー薬の役割と選択、そして自己管理を進めるために

富安 志郎(医療法人光仁会西田病院麻酔科)

シンポジウム 11 緩和ケアにおける代替医療への期待

10月4日(土) 13:40-15:40 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 磯濱洋一郎(東京理科大学 薬学部)
高濱 和夫(熊本保健科学大学 保健科学部)

S11-1 QOL低下の原因となる水分代謝異常を是正する五苓散の作用特性を支える分子: アクアポリン

磯濱洋一郎(東京理科大学 薬学部)

S11-2 抗がん剤誘発末梢神経障害と漢方薬

江頭 伸昭(九州大学病院 薬剤部)

S11-3 がん患者のQOLを維持・向上させる代替医療、補完療法としての漢方薬 —基礎・臨床研究を通して明らかになってきたエビデンス—

上園 保仁(国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野)

S11-4 精油ならびに精油成分の疼痛緩和作用の解析

桑波田日香里(ARTE AROMATICA)

シンポジウム 12 Palliative care から Supportive oncology へ

10月4日(土) 13:40-15:40 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F大会議室))

座長: 吉澤 一巳(東京理科大学薬学部 疾患薬理学研究室)
山田 岳史(日本医科大学 外科)

S12-1 副作用の少ない制がん剤の創製を目指した創薬研究について

高澤 涼子(東京理科大学 薬学部)

S12-2 がん集学的医療の副作用管理における薬剤師の役割

伊東 俊雅(東京女子医科大学病院 薬剤部)

S12-3 オピオイドの導入と栄養治療の標準化

山田 岳史(日本医科大学 消化器外科)

S12-4 胃癌根治手術後の栄養サポートの重要性

今村 博司(市立豊中病院 上部消化管外科)

シンポジウム 13 がん哲学外来・対話カフェの使命 ～がんと共に生きる勇気に寄り添う～

10月4日(土) 15:10-16:40 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 A)

座長: 岡本 禎晃(市立芦屋病院 薬剤科)
沼田千賀子(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

S13-1 "勝海舟記念下町浅草がん哲学外来" 浅草モデル

～地域の拠点としての薬局、地域の中の相談役として頼りにされる薬剤師を目指して

宮原富士子(NPO法人 Healthy Aging Projects for Women(NPO法人 HAP))

S13-2 がん哲学カフェ in UK & 緩和ケアの祖を訪ねて

沼田千賀子(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

S13-3 がん哲学外来の使命 ～偉大なるお節介症候群の蔓延化～

樋野 興夫(順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座)

シンポジウム 14 がん治療における処方連携の問題点と進展に向けて - がん診療連携拠点病院、調剤薬局、患者、三者の連携 -

10月4日(土) 15:10-16:40 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 B)

座長: 薬師神芳洋(愛媛大学医学部臨床腫瘍学
中国四国がんプロフェッショナル養成コンソーシアム)

S14-1 がん治療における処方連携の問題点～保険調剤薬局へのアンケート結果を元に～

矢野 琢也(医療法人 住友別子病院 薬剤部)

S14-2 がん治療における処方連携の問題点と進展に向けて(調剤薬局の立場から)

宇田 雅実(コスモ薬局)

S14-3 医薬連携により期待される利益と現状の課題と対策を探る(拠点病院の医師の立場から)

原田大二郎(独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 呼吸器内科)

S14-4 がん患者が望む連携～患者の立場から～

三好 綾(NPO法人がんサポートかごしま)

シンポジウム 15 「在宅医療推進に向けた課題 ～医療用麻薬を患者さんの為に～」

10月5日(日) 10:10-12:10 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 加賀谷 肇(明治薬科大学 臨床薬理学教室)
鈴木 勉(星薬科大学 薬品毒性学教室)

S15-1 「在宅医療における薬剤師の役割」

村上 智彦(NPO 法人ささえる医療研究所)

S15-2 地域医療連携を支える薬剤師の役割 ～麻薬地域連携シートの活用～

塩川 満(総合病院 聖隷浜松病院)

S15-3 薬局の立場で在宅緩和ケアを支えるために～特に医療用麻薬の供給体制について考える～

前田 桂吾(株式会社フロンティアファーマシー ファーマシー事業部)

S15-4 医療用麻薬の利用促進について

高橋 真一(厚生労働省 医薬食品局 監視指導・麻薬対策課)

シンポジウム 16 診療報酬改定から見た在宅医療の今後 ～健康保険・介護保険対策委員会企画～

10月5日(日) 9:10-11:10 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 A)

座長: 稲葉 一郎((株)ハートフェルト 薬局セントラルファーマシー長嶺)
鈴木 順子(北里大学薬学部薬学教育研究センター社会薬学部門)

S16-1 在宅患者訪問薬剤管理指導料の見直しによる適正化による影響

高橋 眞生(カネマタ薬局)

S16-2 無菌製剤処理加算の対象範囲の評価と在宅医療にて使用できる注射薬の拡大

萩田 均司(有限会社メディフェニックスコーポレーション 薬局つばめファーマシー)

S16-3 在宅における特定保険医療材料・衛生材料の供給体制について

向井 大貴(熊本県健康福祉部健康局薬務衛生課)

S16-4 病院薬剤師としての在宅緩和医療への関わり

西澤さとみ(飯山赤十字病院 薬剤部)

S16-5 緩和医療と薬局薬剤師 –医療保険、介護保険から展望する–

鈴木 順子(北里大学 薬学部)

シンポジウム 17 外来緩和医療をもっと身近に –全人的苦痛の中の精神的苦痛を中心に・メディカルスタッフの役割–

10月5日(日) 9:10-11:10 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間 B)

座長: 北村 佳久(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床薬理学)
松尾 宏一(福岡大学 薬学部)

S17-1 外来での臨床心理士の取り組みと今後の展望について

今村 隆(倉敷中央病院 総合診療科 緩和ケアチーム)

S17-2 早期からの緩和ケアは外来看護師がつなぐことから始まる

～乳がん診断時から多職種間で連携することの重要性～

永山 夕水(彦根市立病院 看護部 外来)

S17-3 外来で薬剤師のできること ～その一歩先へ～

鍛冶園 誠(岡山大学病院 薬剤部 麻薬管理室)

S17-4 抗がん剤投与による精神機能変化 –基礎研究成果からの患者対応への提案–

北村 佳久(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床薬理学)

シンポジウム 18 研究推進委員会企画：次世代型包括的緩和医療における薬剤師に必要な「科学的知識」の整理と臨床研究に臨む“頭”の作り方

10月5日(日) 9:00-11:00 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長：徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)
中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S18-1 日本緩和医療薬学会研究推進委員会による研究活動支援：大学の活用法

徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)

S18-2 薬剤師が研究できない実情とその打破のためのヒント(社会調査を実践するために)

川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本)

S18-3 薬剤師は知識を現場で十分に活かしているのか～病院薬剤部の立場から～

龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部)

S18-4 薬剤部でしかできない“活きた臨床研究”の勧め

中川 貴之(京都大学 医学部附属病院 薬剤部)

S18-5 科学的情報共有がもたらす次世代型包括的緩和医療の促進

：昔と同じ思考性やスタイルではもう限界である！

鳥越 一宏(星薬科大学 薬学部 実務教育研究部門)

シンポジウム 19 緩和薬物療法認定薬剤師の取得と更新に向けて －症例報告書の書き方と薬学的管理の実際－

10月5日(日) 9:00-11:00 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長：直良 浩司(島根大学医学部附属病院 薬剤部(認定委員会))
平山 武司(北里大学東病院 薬剤部(認定委員会))

S19-1 認定薬剤師の申請および更新時の注意点

平山 武司(北里大学東病院 薬剤部)

S19-2 症例報告の書き方/病院薬剤師における症例報告のよい例、悪い例

小宮 幸子(横浜市立大学附属病院 薬剤部)

S19-3 保険薬局における症例報告の良い例、悪い例

加藤 久勝(玉造眞鍋薬局)

S19-4 症例報告作成にあたって(保険薬局薬剤師)

原田 寿(株式会社フロンティアファーマシー フロンティア薬局浅草橋店)

S19-5 病院における認定薬剤師の関わりと症例報告書の書き方

今井 絵理(JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤部)

シンポジウム 20 難治性疼痛に対する多職種アプローチ

10月5日(日) 13:30-15:30 第1会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 1F メインホール)

座長: 久保 速三(京都医療センター 緩和ケア科)
下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)

S20-1 下山 理史(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科)

S20-2 難治性の痛み
～薬剤師の視点から～

田邨 保之(京都医療センター 薬剤科)

S20-3 難治性の痛みに対する多職種アプローチ:在宅医としての関わり

大江 公晴(なごや東在宅ケアクリニック)

S20-4 精神科医からみた痛みへの多職種アプローチ

西原 真理(愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター)

S20-5 トータルペインとして多職種でサポートする～訪問看護の立場から

宇野さつき(医療法人社団 新国内科医院)

シンポジウム 21 フェンタニル速放製剤の安全な臨床活用に向けて

10月5日(日) 13:30-15:30 第3会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間A)

座長: 富安 志郎(医療法人光仁会西田病院麻酔科)
伊勢 雄也(日本医科大学付属病院薬剤部)

S21-1 フェンタニル速放性製剤の院内適正使用への取り組み

高橋麻利子(東京女子医科大学病院 薬剤部)

S21-2 フェンタニル速放製剤の安全な臨床活用に向けて

服部 雅美(東京女子医科大学病院 看護部)

S21-3 フェンタニルクエン酸塩舌下錠を安全に運用するための緩和ケアチームの取り組み

加藤あゆみ(日本医科大学付属病院 緩和ケアチーム 薬剤部)

S21-4 突出痛に対する新しいレスキュー適正使用への取り組み

鈴木 規仁(日本医科大学 麻酔科学教室)

シンポジウム 22 「学術論文に投稿しよう! -知っとくと得する投稿から受理までの道標-

10月5日(日) 13:30-15:30 第4会場(愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール) 2F 真珠の間B)

座長: 小野 秀樹(武蔵野大学 薬学部(緩和医療薬学会 編集委員会))
徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室(緩和医療薬学会 編集委員会))

S22-1 論文に投稿するということは?

徳山 尚吾(神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)

S22-2 論文の投稿から受理までのシステムとは -緩和医療薬学雑誌を例として-

小野 秀樹(武蔵野大学 薬学部(緩和医療薬学会 編集委員会))

S22-3 実際に論文に投稿してみよう -審査過程におこる様々な疑問点の解消を目指して

岡本 禎晃(市立芦屋病院 薬剤科)

S22-4 実際に論文に投稿してみよう -統計について考える-

波多江 崇(神戸薬科大学 薬学臨床教育センター)

シンポジウム 23 働く世代のがん治療と日常生活の両立を支援するための薬学的アプローチを考える

10月5日(日) 13:30-15:30 第7会場(愛媛看護研修センター(2F 大研修室))

座長: 木村 和哲(名古屋市立大学 大学院医学研究科 臨床薬学分野)
若尾 文彦(国立がん研究センター がん対策情報センター)

S23-1 第2期がん対策推進基本計画策定後の動きー働く世代へのがん対策の充実を中心に
若尾 文彦(国立がん研究センター がん対策情報センター)

S23-2 緩和ケアサロンに集う働く世代のその後の歩み
阿部まゆみ(名古屋大学 大学院 医学系研究科 看護学専攻 がんプロフェッショナル
養成基盤推進プラン)

S23-3 働く世代のがん治療と日常生活を支援するー緩和ケアチーム薬剤師の立場からー
龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部)

S23-4 働く世代のがん治療と日常生活を支援するための薬剤師の取り組み
川出 義浩(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 病院薬学分野)

シンポジウム 24 緩和ケア教育における専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)の現状と将来展望

10月5日(日) 13:30-15:30 第8会場(愛媛県身体障害者福祉センター(2F 大会議室))

座長: 川村 和美(シップヘルスケアファーマシー東日本、教育研修部)
細谷 治(城西大学 薬学部)

S24-1 薬学部が先導する在宅がん医療・緩和ケアの大学間連携多職種協働教育の試み
中嶋 幹郎(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)

S24-2 合意形成を学ぶ千葉大学亥鼻 IPE
石井伊都子(千葉大学 医学部附属病院 薬剤部)

S24-3 医系総合大学の特色を活かしたチーム医療教育カリキュラムと緩和ケア教育
木内 祐二(昭和大学 薬学部)

S24-4 「緩和医療学・IPW 演習」-緩和ケア教育における専門職連携教育の可能性について-
細谷 治(城西大学 薬学部)